令和６年度全国統一防火標語

「守りたい
未来があるから
火の用心」

たかつき消防団だより

消防団に関する詳しい情報は　高槻市消防団　検索

第 69 号
令和６年６月15日
発　行
高槻市桃園町4番30号
高槻市消防団
電話 674－7980

団長就任のあいさつ

高槻市消防団
団長 **小松 良一**

初夏の候、消防団員の皆様にはご健勝でお過ごしの事とお喜び申し上げます。

令和6年4月1日付にて、前野団長の後任として高槻市消防団の団長に就任いたしました。消防団員は、市民の生命、身体及び財産を守る役割を胸に日々活動しておりますが、その目的を果たすには、団員が消防の知識・技術を身につけ、同じ目的意識を持って活動することが重要です。そのためには団員が安全に活動できる環境を整える必要が有ります。

また近年、火災だけではなく様々な災害が世界的に発生しております。我々消防団におきましても火災消火活動だけではなく土砂災害、河川氾濫、特に地震災害に対する対応が求められると考えられます。今年1月の能登半島地震では多くの被災者の方が苦難の日々を過ごされています。ただ対岸の火事、他人事とは考えられず身が引き締まる思いです。その状況下では消防に対する市民の期待はますます大きくなってきます。

市民に信頼していただけるよう、団員が一丸となり、先輩諸氏が築き上げられた消防精神を壊すことなく、さらなる発展を目指して浅学非才な私ですが、皆様方のご支援、ご協力をいただき消防団の使命達成のため、全力で努力致す所存でございます。

最後に団員各位のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げて就任の挨拶と致します。

団長退任のあいさつ

前 高槻市消防団
団長 **前野 茂**

初夏の候、高槻市消防団員の皆様には、ご健勝にてお過ごしの事とお喜び申し上げます。

元日に発生した令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けられました地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて私こと、令和6年3月31日をもって、高槻市消防団を退団致しました。在任中は関係各位にご指導ご鞭撻を賜り、お陰さまで重責を果たす事が出来ましたこと、厚くお礼申し上げます。

昭和49年に入団以来、約50年間先輩諸氏の指導の下に活動させていただきましたことは、私にとってとても意義のある期間でした。

平成30年4月に団長に就任してからは、令和元年に新型コロナウイルスが蔓延し、消防団活動にも制限がかかる中、消防団幹部の皆様そして消防団関係者の皆様のご協力とご指導の下、役割を果たせました事に深く感謝申し上げます。

消防の使命は市民の生命・身体及び財産を保護することであります。しかし、近年の災害は多様化し、このような災害に対しても市民を守る大事な役割を負託されている団員の皆様にはご苦労をおかけ致しますが、よろしくお願いいたします。

最後となりますが、高槻市消防団の益々の発展と団員の皆様方のご活躍・ご多幸を祈念申し上げまして退団の挨拶と致します。長い間本当にお世話になりました。

方面隊訓練に参加して

樫田分団 出灰班 班長
伏見 能成

令和6年3月3日(日)、清水・樫田両分団による方面隊訓練を実施しました。

傾斜地での集団行動とジェットシューターによる消火訓練で、無線機での通信訓練も含めた総合演習です。会場は大字出灰の梅ノ木原といわれる斜面で、倒木処理のための作業道が残る6年前の台風被災地です。植林された木々がいまだ成長しておらず、見通しがきき、道幅もあるので遭難や滑落事故、野生動物との遭遇も心配なく、安心して臨めました。

班ごとの行動なので、団員同士の交流はありませんでしたが、分団本部相互の協力関係を深め山間部の活動指揮のイメージを構築することになったと思います。また、使用機会が少ないジェットシューターによる訓練は貴重で、水漏れなどの点検ができ装備に対する安心感につながりました。

山間部での活動が多い樫田分団でも、ジェットシューターの使用は20年以上ありません。今回初めて体感した団員も多いでしょうから、大変意義の大きな訓練だったと思います。

Jet Shooter S

ジェットシューター写真

※ジェットシューターとは残火処理や林野火災などで活躍する背負式消火水のうので、約18ℓの水を入れる事が可能です。

消防団災害図上訓練について

阿武野分団 元副分団長
吉田 博道

令和6年2月3日(土)に消防本部で各分団3名の参加により実施された災害図上訓練は大変有意義なものでした。

その内容は一種のシュミレーションゲームの様なもので、消防本部作成のシナリオに沿って、大規模災害時に消防本部から分団本部に入る火災発生等の連絡に対し、各班の参集状況・出動状況を把握し、各班に指令を出していくというものです。

無線機でそれらの連絡を受け、テーブル上の巨大な阿武野地区の地図に火災発生現場等をマーキングすると共に、状況を記録しながら指令を出して行く作業を手分けして行いました。とても緊張感があり、地図を見ながらの作業は実際に大規模災害を体験したような感覚が残りました。

分団本部の役割が理解出来ると共に、大規模災害時においては瞬時に的確な判断が必要であることを実感させてくれる訓練だと思います。今後も定期的に実施されることを希望致します。

淀川河川敷　鵜殿のヨシ原焼き

五領分団 道鵜班 班長
田中 薫

令和6年2月18日(日)、鵜殿ヨシ原保存会と上牧実行組合によって「鵜殿のヨシ原焼き」が実施されました。

ヨシ原焼きはヨシの新芽成長促進のため、害虫駆除と不慮の火災防止等を目的として毎年2月下旬に行われます。3日前に雨が降り天候が心配されましたが、今年も予定通り行うことが出来ました。

五領分団は点火時の安全確保と残火処理、警備を担当し、道鵜班は下流側、前島道鵜区域においてヨシ原保存会が行う点火に同行、点火の安全確保と残火処理にあたりました。

9時に点火が始まると、2月としては珍しく暖かな日が続いたためヨシが良く乾き、燃え過ぎ防止のため厳重に倒したヨシをものともせず、風に煽られ短時間に綺麗に燃えたように思います。11時過ぎには消火用の水のうを使って残火処理を行いましたが、倒したヨシと草で所々小山になっていた部分が火種として残り、その残火処理に例年より時間を使いました。

火種として残る小山の対策は反省点となりましたが、今年も無事に終了する事が出来、皆様のご協力に感謝致します。

天神祭り警備

芥川分団 部長
安井 勝彦

毎年2月25日・26日に行われている天神祭りに高槻分団と芥川分団は警備で参加しております。今年は天神祭り事前会議にも参加させていただきました。大勢の人の労力で天神祭りが行われており、消防団も天神祭りの円滑な運営に協力させていただいています。

芥川分団は25日の担当でした。当日は朝から雨模様で心配されましたが、午後には雨もほぼ上がり非常にたくさんの人出で賑わっていました。

私も子供の頃、天神祭りは楽しみなイベントで露店をうろうろした事を思い出します。親となり消防団員となり色々な形で天神祭りに参加しています。

今年も無事に終わり、これからも何事もなく終われるよう、消防団を通じて協力させていただこうと思います。

主力機械特別点検結果について

団本部 副団長
川上 敏弘

小型動力ポンプの真空不良が1件ありました。これについては運用時に河川からの吸水が多いと思われ異物の吸込みに注意をしていただきたい。

無線機等の不良が2件ありました。これについては日頃から性能の確認と交信操作の熟達に努めていただきたい。

防災資機材関係は全て良好でした。

表彰

令和６年春の褒章

・藍綬褒章
日下部 道雄（磐手分団本部）

消防庁長官表彰

・永年勤続功労章
川上 敏弘（団本部）
久保田 育仁（阿武野分団本部）

大阪府知事表彰

・消防勤続功労章
宮西 康成（高槻分団本部）
安宅 賢（高槻分団本部）
安井 勝彦（芥川分団本部）
輕墓 祥行（芥川分団本部）
今道 浩史（清水分団本部）
原水 誠（富田分団本部）

・消防功労章
江藤 由紀子（団本部）
坂上 孝一（高槻分団）
臼井 秀典（芥川分団）
井上 重和（古曽部班）
日下部 暁（成合班）
長東 重志（大塚班）
大塩 勉（三島江班）
笹井 仁志（富田分団）
木村 憲司（田能班）
伏見 能成（出灰班）
田中 竜（出灰班）

日本消防協会長表彰

・功績章
寺本 幸司（団本部）

・精績章
田中 義仁（団本部）

・勤続章
田中 義仁（団本部）
渡邊 美広（樫田分団本部）

大阪府消防協会長表彰

・永年勤続章
安宅 賢（高槻分団本部）
丸野 史博（高槻分団）
伊藤 昭久（五領分団本部）
平城 晃一（道鵜班）
田中 雄一（山手班）
岸田 昌範（阿武野分団本部）
長尾 伸弘（奈佐原班）
田中 才実（奈佐原班）
中村 秀樹（岡本班）
山本 節也（浦堂班）
前田 浩治（大冠分団本部）
橋長 秀典（東天川班）
入江 弘幸（東五百住班）
吉田 隆行（東五百住班）
二神 義治（三箇牧分団本部）
大塩 勉（三島江班）
岡島 宏（富田分団本部）
原水 誠（富田分団本部）

・勤続章
小林 和子（団本部）
片山 佑一（高槻分団）
正野 義弘（五領分団本部）
大黒 幸喜（別所班）
日下部 暁（成合班）
清水 雄司（奈佐原班）
松本 隆幸（氷室班）
西村 健一（西之川原班）
山中 英樹（西之川原班）
三宅 正樹（原班）
吉川 晃（冠班）
畑中 義之（辻子班）
西口 雅也（芝生班）
今井 壽司（大畑班）
中道 勝成（西面班）
永田 幸貴（富田分団）
大村 幸男（田能班）

・勤功章
中田 茂晴（高槻分団）
二岡 辰也（芥川分団）
河野 哲也（萩之庄班）
小野 達史（安満班）
取違 誠（山手班）
岩 克樹（成合班）
久保賀 津也（赤大路班）
樋口 貢大（霊仙寺班）
吉田 博明（土室班）
向井 幸弘（西之川原班）
松田 敦樹（西之川原班）
三宅 正樹（原班）
泉 浩之（塚脇班）
宮本 正巳（野田班）
大村 一（大塚班）
中村 暢彦（津之江班）
濵 直輝（柱本班）
安井 智一（柱本班）
八木 隆志（富田分団）

・精勤章
荻野 明子（団本部）
田中 貴弘（芥川分団）
川上 伸一（梶原班）
吉田 篤史（安満班）
仲西 正（古曽部班）
根本 泰志（川久保班）
岸田 勝彦（塚原班）
寺川 考之（土室班）
大川 信康（岡本班）
早栗 丈央（清水分団本部）
川上 順平（宮之川原班）
奥村 恭二郎（大蔵司班）
川畑 慶彦（下田部班）
田中 広樹（東天川班）
中嶋 和哉（大塚町班）
中脇 卓也（芝生班）
濵田 義宏（西面班）
濵 正之（柱本班）
島田 真哉（富田分団）
久保 威仁（二料班）

消防団長表彰

・精績章１号表彰
早栗 丈央（清水分団本部）

・精績章２号表彰
橋本 和幸（高槻分団）
圓實 純（五領分団本部）
井上 重和（古曽部班）
日下部 暁（成合班）
髙谷 貞勝（氷室班）
高岡 一平（宮田班）
寺川 考之（土室班）
向井 幸弘（西之川原班）
河村 雅生（大塚班）
宮本 隆史（須賀班）
好田 裕彦（西五百住班）
才本 真也（唐崎班）
石原 慎隆（富田分団）

人事異動

昇任者

団本部
団長　小松 良一
副団長　伊藤 昭久

芥川分団
分団長　高野 真幸

五領分団
副分団長　塩見 友明
分団長　正野 義弘

磐手分団
副分団長　森本 昌宏
部長　圓實 純
班長　黒田 義幸
分団長　加賀山 元

阿武野分団
部長　田中 雄一
班長　河野 幸記
副分団長　岸田 昌範
部長　宮本 卓磨
班長　宮路 耕太郎
班長　岸田 一郎
班長　田野 雄大

大冠分団
班長　九鬼 博
班長　吉川 貴与
班長　加門 大輝
班長　森田 尚紀

三箇牧分団
分団長　川中 健史

副分団長　西村 誠
副分団長　中内 卓次
部長　田淵 晴喜
部長　西口 貴司
班長　中井 善宣

樫田分団
班長　田中 尚之

令和６年４月１日付

高槻市消防団入団式・表彰式
火の用心
火の用心

入団者

阿武野分団
土室班　吉田 壽男

清水分団
宮之川原班　稲田 哲士
真上班　村田 正男
萩谷班　矢延 陸

大冠分団
大塚班　吉田 峻祐
辻子班　田村 隆一

三箇牧分団
唐崎班　池田 弘樹

富田分団
旭 輝彦

樫田分団
田能班　亀山 真吾
中畑班　中賀 洋一

令和６年４月１日付

機能別入団者

磐手分団
取違 誠

阿武野分団
吉田 博道
久保田 俊昭

清水分団
筒井 忠彦
山本 勝己

大冠分団
檀 朋昭
置田 恒夫
木村 弥

三箇牧分団
二神 義治

樫田分団
木村 道明

令和６年４月１日付

退団者

清水分団
真上班　吉野 春明
令和５年９月30日付

三箇牧分団
三島江班　松村 紀男
令和５年11月10日付

大冠分団
春日班　竹本 陶太
春日班　佐野 清
令和５年11月30日付

如是分団
芝生班　仲谷 浩一
令和５年12月25日付

団本部
前野 茂

芥川分団
足立 譲志
窪田 侑記

五領分団
道鵜班　野村 夢希亜
梶原班　阪本 善信
梶原班　桐谷 志郎
梶原班　長谷川 恵司
梶原南班　南本 直喜
梶原南班　岡本 竜也

磐手分団
分団本部　西岡 和雄
安満班　清水 栄治
山手班　取違 誠
山手班　増田 克洋
成合班　大西 章弘

阿武野分団
分団本部　吉田 博道
機能別　田中 純一
機能別　川瀬 和美
氷室班　久保田 俊昭
氷室班　山川 秀一
氷室班　髙谷 和良
宮田班　西田 和秀
宮田班　上田 哲之
宮田班　川﨑 大実
赤大路班　檀 俊幸

清水分団
機能別　山本 勝一
原班　小林 龍生
浦堂班　山本 勝己

大冠分団
野田班　檀 朋昭
冠班　木村 弥
冠班　松山 守
冠班　置田 恒夫
西冠班　西島 務
西冠班　髙井 秀次

如是分団
芝生班　北島 弘之

三箇牧分団
分団本部　二神 義治

樫田分団
機能別　久保 文男
田能班　木村 道明
令和６年３月31日付

富田分団
分団本部　岡島 宏
令和６年４月28日付

阿武野分団
奈佐原班　齊藤 純也
令和６年５月31日付

謹んでお悔やみ申し上げます。

令和五年十二月二十五日
如是分団　芝生班
団員
故　仲谷 浩一 様　享年六十一歳

令和六年四月二十八日
富田分団　分団本部
副分団長
故　岡島 宏 様　享年四十七歳

ホース乾燥台改修

大冠分団　下田部班　班長
川端 孝一郎

この度、ホース乾燥台の改修工事を行いました。乾燥台は、通学路や公園に隣接して建っており、転倒すれば大きな被害となるため、地元自治会と相談し決定しました。改修工事は、基礎部分に再度コンクリートを流し込み強化し、ポール部は、さびを落とし再塗装を行い、これまでロープで吊っていたものをワイヤーに交換しました。

工事については、分団幹部の方々に相談して申請手続き後は、消防本部警防課の方にご指導をいただいたおかげで工事を無事完了することが出来ました。

この乾燥台を訓練のみで使用できる様に、日々火災予防活動を行っていき、火災が減少するように努めてまいります。

消防ポンプ積載車及び小型動力ポンプ

磐手分団　別所班　班長
大黒 幸喜

この度、磐手分団別所班におきまして、消防ポンプ積載車・小型動力ポンプの２点を更新させていただきました。

消防ポンプ積載車は、初年度登録年が63年、小型動力ポンプも同時期に導入致しました。35年以上も活動した機器であり、老朽化と修理部品の確保が難しいとの事で更新を実施した次第です。新車両は軽自動車タイプの為、小回りが利くようになり地域内の狭い道でも対応できること、またポンプも低騒音タイプの為、放水時の指示伝達もしやすくなりました。

こちらの新装備を用いて今まで以上に、地域の方々の生命・財産を守れるよう日々の訓練に精進してまいります。

最後にこの度の更新にあたり、ご理解とご協力頂きました別所自治会・水利組合をはじめ、消防本部関係各位の皆様のお力添えに心から感謝申し上げます。

高槻市消防団
磐手分団　別所班

富田分団　分団長
西村 裕幸

この度、富田分団におきまして、消防ポンプ積載車及び小型動力ポンプを更新致しました。

大切に30年間運用してきましたが、交換の必要な部品は製造停止しており、更新を余儀なくされました。

近年、車の入荷に時間がかかる中、補助金は年度事業である為、迅速に動き、令和５年４月17日に正式に注文しました。車の入荷に10カ月かかり、加装業者は短い工期の中、令和６年３月28日に完成させてくれました。

完成した車両を見た時、苦労した結果が形になり嬉しく、年度内に出来上がりホッと致しました。

今回は、年度事業の壁を痛感した１年となりました。しかしながら、無事完成し更新事業を終了した今改めて、更新を後押しいただいた財産区関係者様、アドバイスいただいた消防本部の方々、車両を無事完成させた加装業者様、本当にありがとうございました。

新しくなった、小型動力ポンプ及びポンプ積載車を活用し、消防活動の技術向上に努めてまいります。